

形成外科

1. 構成

診療部門 形成外科

a. 体制 …当該年度の特徴・スタッフ等

スタッフ：

鈴木 義久 部長

石川 奈美子 副部長

武田 孝輔 副部長

武田 紘司 医員

首藤 加奈 レジデント

月江 富男 非常勤

吉岡 伸高 非常勤

鈴木 京子 非常勤

間藤 尚美 非常勤

診療体制：

	月		火		水		木			金		土
	回診				回診					回診		
午前	一般 外来	特殊外来： 第1、3週 血管腫 第2、4週 リンパ浮腫	外来	全身 麻酔 手術	一般外来	局 所 麻 酔 手 術	一 般 外 来	特殊外来： 第1、3週 顔面神経外 来)	全 身 麻 酔 手 術	一般外来		一般 外来
午後	外来	局所麻酔 手術	第2、4週 美容、血管 腫外来	全身 麻酔 手術	第2、4週 美容外来	局 所 麻 酔 手 術	第2、4週 美容外来		全 身 麻 酔 手 術	一般 外来	特殊外 来：血 管腫	
										検討会		

特徴：

形成外科は、体表に関連するあらゆる治療を行う診療科です。当科では形成外科のほぼ全般をカバーする疾患の手術を行なっております。

- 先天性疾患

- 唇顎口蓋裂：唇裂手術、口蓋裂手術、顎裂部骨移植術、外鼻形成術
- 多指症及び合指症手術
- 眼瞼下垂症
- 耳介変形：小耳症、折れ耳
- 先天性耳漏孔
- 四肢の疾患：多指症、合指症、多趾症、合趾症

- 皮膚腫瘍良性腫瘍

手術もしくは炭酸ガスレーザーによる蒸散を行い傷跡が最小限になるような治療をしています。

- 悪性腫瘍

腫瘍生検し悪性と診断された場合にはガイドラインにのっとり治療を行なっています。腫瘍が大きく腫瘍切除による組織欠損範囲が広い場合には局所もしくは遊離皮弁による再建術を行っています。

組織欠損に対する再建手術

- ・ 乳房再建

乳腺外科との協力のもとに、再建は乳癌切除手術と同時に行う 1 次再建と乳癌手術後期間を置いてから行なう 2 次再建手術を行なっています。再建方法は人工物（シリコンインプラント）、自家組織（広背筋、腹直筋、遊離下腹壁動脈穿通枝皮弁）で行なっています。他院にて乳癌切除手術を受けられた患者さんの 2 次再建手術も行っています。

- ・ 悪性腫瘍もしくは外傷による広範囲組織欠損に対する再建

消化器癌、舌癌、咽頭癌の術後、脳神経外科手術後の自家組織による再建を行なっています。

- 顔面神経麻痺

静的再建や動的再建を行っています。また、兔眼により生じる角膜知覚障害に対し隔膜知覚再建も行っています。

- 癬痕拘縮、ケロイド

まず保存的加療を行い、治療抵抗性であれば手術も検討します。

保存的加療にはステロイドのテープ貼布、ステロイド注射がります。再発の可能性が高い症例には電子線照射も行います。

- 外傷

手足の腱断裂、動物咬傷、軟部組織損傷、神経断裂、涙小管断裂など幅広い疾患に対し

対応しています。

➤ 顔面骨骨折

頬骨骨折、眼窩底骨折、鼻骨骨折、Le Fort 骨折、複合型骨折など顔面外傷全般にわたる治療を行なっています。

➤ 熱傷

重度熱傷に関しては全身管理の下植皮術を行い救命しています。

● リンパ浮腫

特発性や悪性腫瘍術後や放射線照射後に発症した上下肢のリンパ浮腫に対しリンパ管を造影し特殊な顕微鏡を用いて細静脈吻合術を行なっている。手術の前後療法として看護師による圧迫療法やセルフケア指導など集学的治療を行ない、治療効果を得ています。

● 下肢静脈瘤

超音波エコーで静脈瘤の状態を検査した後大伏在静脈ストリッピング手術や高周波焼灼手術を行なっています。また、潰瘍や下腿の皮膚の色素沈着、浮腫を伴う重症の静脈機能不全に対し内視鏡下不全穿通枝結紮術を行なっています。また、細かい血管の浮き出しに対してはレーザー照射を行っています。

● 糖尿病性下肢皮膚潰瘍、ASO による下肢皮膚潰瘍

まず保存的治療を行います。治癒が困難な場合切断術を行っているが、持続陰圧療法（VAC）治療を併用し、なるべく組織を残す方向で手術を行っています。

● 眼瞼下垂症

弛緩性眼瞼下垂症に対し挙筋前転術や余剰皮膚切除術を行なっています。

● 血管腫

V-ビームレーザー治療を健康保険で行っています。

● 美容外来

シミ、毛穴の拡大、小じわ、赤ら顔、にきび、にきび跡に対しレーザー照射もしくはメソセラピーを行っている。脱毛レーザー治療も行なっています。

b. 診療実績 …臨床統計(手術件数、検査件数)・研究等

手術件数

形成外科 新患者数： 1800 名 / 形成外科 入院患者数： 301 名

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	260	4	264
腰麻・伝達麻酔での手技数	3	0	3
局所麻酔・その他での手技数	104	794	898
入院または全身麻酔の手技数計 :371			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計 :794			
合計係数 :768			

疾患大分類手 技数	入院			外来			計
	全身麻 酔	腰麻・ 伝達麻 酔	局所麻 酔・その 他	全身麻 酔	腰麻・ 伝達麻 酔	局所麻 酔・その 他	
外傷	36	1	15			52	104
先天異常	15		3			4	22
腫瘍	106		23			253	382
瘢痕・瘢痕拘縮・ ケロイド	4		6			12	22
難治性潰瘍	42	2	22			7	73
炎症・変性疾患	56		18			14	88
美容（手術）							
その他			17			6	23
Extraレーザー治 療	1			4		446	451

c. 研究実績 …論文・学会発表のテーマ・発表者

学会

- 1 鈴木義久 ベトナムダナンでの脊髄損傷治療の臨床試験について
第120回関西形成外科学会学術集会 2018/11/17 (兵庫)
- 2 武田孝輔 Pulsatile varicose vein の1例 第120回関西形成外科学会学術集会
2018/11/17 (兵庫)
- 3 石川奈美子 Lymphaticovenular anastomosis (LVA) with Microscopic intraoperative
ICG lymphography 44th European Congress of Lymphology 2018/9/21-22 Praha

論文

- 1 Norihiko Nakano, Kenji Kanekiyo, Yoshihiro Yamada, Masahiro Tamachi,
Yoshihisa Suzuki, Masatoshi Fukushima, Fukuki Saito, Seiya Abe,
Chihiro Tsukagoshi, Chimi Miyamoto and Chizuka Ide Structures of filum
terminale and characteristics of ependymal cells of its central canal in rats
Brain Research V1707、P208-215 2019

研究課題

- 1 末梢神経損傷を対象とする神経再生補助材の開発 平成29-31年度AMED

橋渡し研究戦略的推進プログラム： シーズ B 橋渡し研究拠点名：京都大学、
代表者所属機関：田附興風会医学研究所北野病院

(鈴木義久、分担研究者：羽渕友則、中村正樹)

- 2 脊髄損傷後の新規再生治療法の開発：大脳損傷メカニズムの解明と骨髄細胞を用いた修復 平成 29-31 年度科学研究費、基盤研究 (B)
(鈴木義久 分担研究者：小島秀人、岡野純子、寺島智也、石川奈美子 連携研究者：樫美和子、今井晋二、井出千束)
- 3 アルギン酸を使用した再生医療技術のための新規 scaffold の開発 AMED 研究成果最適展開支援プログラム ハイリスク挑戦タイプ (鈴木義久)
- 4 中枢末梢神経軸索再生における瘢痕の抑制 平成 30 年度 基盤研究 (C) (一般)
(石川奈美子、鈴木義久)
- 5 人工リンパ節からのリンパ管新生についての検討 脂肪由来間質細胞付加の効果について 平成 30 年度 若手研究 (武田孝輔)
- 6 ヒト幹細胞臨床研究骨髄由来単核球細胞を用いた脊髄損傷 (ASIA 機能障害尺度 A,B) に対する第 II 相試験 (鈴木義久)
- 7 アルギン酸を使用した再生医療技術のための新規 scaffold の開発
(鈴木義久、石川奈美子、平井達也)
- 8 磁場による神経血管再生 (石川奈美子)
- 9 四肢リンパ浮腫患者のリンパ管の再生 (石川奈美子)